

◆ 上島 成人式についての質問をさせていただきたいと思います。

ことしの成人式に先立ちまして、二人の新成人の若者から、成人式になぜタレントのトークショーなのかというような質問といたしますか、苦情が私に参りました。そこで、当日、私もほかに予定がありませんでしたので、どんなものかとすべて拝見させていただきました。正直申し上げまして、このままじゃいけないというふうに強く思ったわけでありませぬ。

そこで質問いたしますが、区も今日までの苦労の中でそのような形式にしていったという過程もあるかと思ひます。一部の式典については大変よかつたというふうに、特に成人の歌というのは、私はよかつたのかなというふうに思っております。問題は二部のトークショーなのでございますが、経費がない中で大変なことも想像いたしますが、新成人の大切な儀式というときに、中身について細かくは私は申し上げませんが、全く内容のないようなああいうトークショーを新成人に対して行うというのはどうなのかなと私は正直思うのですが、成人式に対します考え方、今回の成人式についてのお考えを簡単にお聞かせいただきたいと思います。

◎ 地域振興青少年課長 成人式についてのお話をいただきました。

私ども、今回の成人式に当たりましていろいろ考えたわけでございますが、まず一つ目の成人式の課題としては、いわゆる人生の先輩たちからの祝福、成人としての自覚を持っていただく。それから、今後の区の将来を担う若者たちに大人たちが思いを託す場、そのような形で区長、あるいは議長様、来賓の方々が出席した記念式典を第一部としてやらせていただきました。

それから、今お話いただきましたけれども、第二部としては、ことし同じく二十を迎える芸能人の方、女性の方だったわけですが、その方をお呼びいたしましていわゆる二十のトーク、同世代の代表としてその方の今後の抱負などをトークショーの形でやらせていただいたということでございます。

◆ 上島 全国的に成人式についてはいろいろな議論もありまして、またいろいろな形で行われておりますが、今回の評価も含めまして、今後どういうふうにしていくのかなと思っておりますが、その辺についてはいかがでしょうか。

◎ 地域振興青少年課長 実はこの数年前までは一般的な形で、講演会というふうな形でいろいろ著名人の方に来ていただいてお話をさせていただき、こういうような形を持ってございました。しかし、この形がなかなか立ち行かないというか、失礼に当たる。あるいは秩序が保てないといういろいろなことがございました。それがありましたもので、いろいろ考えていく中で、同世代の方々の代表的な方に会っていただく、それでいろいろお話を聞く。そのような形の中でより思い出深い式になればと、こういうような形でやらせていただいたわけですね。特にタレントを選んだということにつきましては、事務的にもなるべく多くの方に、人気のある方に来ていただいて成人式そのものに、式典に来ていただくという思いもあったことは事実でございます。

◆ 上島 今回の第二部のトークショーについては、委託をされているということなんですけれども、区側としての意向として、同じ新成人の人が話ができて、同じ感覚でというその考え方もよくわかるんですが、私は、新成人に対してちょっと迎合し過ぎじゃないかなというふうに思うんです。本来、この成人式というのは、どんな社会と申しますか、どんな国でも、どんな文化においても、成人になる過程の中で大変重要な通過儀式として行われているわけでありまして、日本においては七一四

年、聖武天皇の元服のときまでさかのぼって今までにきているという、そういう流れもあるわけであり、そこまで厳粛にやれとは言いませんが、本来、今までいろいろな形で講演会をなされていたという話もわかります。

ただ、昨年、早稲田大学の教授の吉村作治先生が仙台の方で講演なさって、それで大変お怒りになった。それで、仙台市長は、精神面の欠落というか、戦後の教育の象徴を見た、そういうようなコメントを上げているわけでありまして、私は、新成人も悪いと思うんですが、それは別の問題として、大人として講演をやった中で、幾ら嘲笑があってもそれに負けずに言い続けるといいですか、大人としての使命だというふうに思うんです。ですから、新成人がどんなニーズであろうとも、我々はどういう成人式を行いたいのかという、そこが私は一番重要なところだと思うんです。私は、今後そういった方向で成人式を行ってもらいたいと思うんですが、その点についていかがでしょうか。

◎ 地域振興青少年課長 お話のことは一面よくわかりまして、私が申しあげましたように、今後の区の将来を担っていただく若者たちに私たち大人が思いを託す場、そういうような形の意味合いがすごくわかるわけがございます。これをどうやっていくかということで、今私どもは第一部にそれを全部つぎ込みまして、第二部はなるべく楽しんでいただくという形でやっておりましたけれども、それについては今おっしゃられたような形で、確かに興味を持ってないという形もございますもので、それについては見直していくことも考えながら、より思い出深いものにしていきたいとは思っております。

◆ 上島 今回私の方に話のあった二人の一人が帰国子女だったんですよ。それで帰国子女で、日本で成人式、こうやっているのを見たいということで来た中で大変がっかりして帰られました。私も正直すごいがっかりしたんですが、ほかの国から見ても、これは大変おかしな状況であるというふうにも思います。

それはあくまで行政側の問題だけじゃないというのは、先ほども申しあげましたが、やはりこれからは大人といいますか、成人式自体が、区として表現できる大切な場所だと思うんです。これから成人になっていくそういった新成人に対していいかげんな対応をされていることは、これからの区政に大きな影響があると私は思いますので、ぜひそういった観点でも一生懸命やっていただきたいと思いますが、助役の方は、今までの成人式、そしてこれからの成人式、どのようにお考えか、お聞きしたいと思います。

◎ 水間助役 私もここ数年、成人式には立场上参加をしております。式典中に確かに私語が多いこと、あるいはまたこちらの行動等がままにならないといったようなことでは大変遺憾に思っております。他の自治体でも悩んでいるというようなことでございます。しかし、私自身の経験からいたしましても、二十という人生の一つの大きな節目でございまして、これから二十一世紀を担ってもらう若い力に最大限の祝福を贈りたいということは同じ思いでございまして、これからいろんな手法を凝らしまして、ひとつ社会への船出にふさわしいような、そういう式典にぜひ来年から創意工夫をしてやってみたいと、そういう強い決意でおります。

◆ 上島 私は、芸能人などの客寄せを使って、内容はどうであれ多くの参列者を望むという形ではなくて、人数が少なくてもしっかりした内容の成人式を行うというふうな選択がいいというふうに申しているのです。たとえ大きな会館の中に十人でも、成人式を意義深いものにしたいと思う新成人のための本当に意味のある成人式を行っていただきたい、そういうふうに思うんです。

区としての成人式の取り組みが示されると思うんですが、対案は、まずやはり、人生の先達としての講演というんですか、メッセージというものが上がるとは思いますが、今まで大騒ぎしたとか、

なかなか出席者がいないという問題が一つ上がっているのはよくわかっております。そうではなくて、そういうものに耐え得る講演者をまず選ぶことと、無理に押し込めるのではなくて、自由参加で、騒ぐ者がいたらやはり退席してもらおうという、大変だと思いますが、成人式を行う側として、また大人として私は当然の対応だと考えますけれども、一つはそのような方法です。

そしてもう一つは、少人数に耐えられて、かつ騒ぎに耐えられる講演者が見つかりづらいという中で、映像でも悪くないと思います。きょうは一つビデオを持ってきたんですが、これは「二十一世紀に生きる君たちへ」という司馬遼太郎さんが小学校六年生の国語の教科書に書きおろした文章を使ったイメージビデオです。それを持ってきました。この文章の冒頭だけ読ませてもらいます。

「私は歴史小説を書いてきた。もともと歴史が好きなのである。両親を愛するようにして歴史を愛している。歴史とは何でしょうと聞かれるとき、それは大きな世界です。かつて存在した何億という人生がそこに詰め込まれている世界なのですと答えることにしている。私には、幸いこのようにたくさんすばらしい友人がいる。」

そういうような冒頭から入っていく、すごいすばらしい内容だと私は思ったんですが、こういうものを流してもいいのかなと思っております。

それで、百人に一人でも二百人に一人でも、式に来た若者が未来に責任を持って、希望を持って初春の青空の下をたくましい足取りで帰れる、そんな成人式を行っていただきたいと思います。